

学力向上フロンティアスクール中間報告書様式（中学校用）

都道府県名	三重県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	上野市立成和中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	14
生徒数	50	47	78	2	177	

研究の概要

1. 研究主題

基礎基本の定着を図るための研究

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科
 小規模の中学校であるため、多くの教科では免許所有者が1名で、特定の学年や教科に絞ることが出来ない。教科学習を進めるためのベースとなる基礎基本を明確にし、それぞれの教科や学年で研究を進める。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ	基礎基本の定着を図るための研究
	仮説	学習指導の課題の明確化とその改善
平成15年度	研究内容・方法	授業研究（授業内容、指導方法の工夫と改善及び教材・教具開発）
		授業後の研究協議
		総括

平成15年度	テーマ	習熟度を高めるための授業の創造をめざして
		昨年度は指導方法の見直しや効果的な教材・教具の開発等を中心とした授業改善をめざす中から基礎基本の定着を図る研究を進めてきたが、本年度はその成果と課題をふまえて学習の主体である生徒が授業に対して主体的・意欲的にとり組む姿勢を引き出すことに焦点をあてた研究を進めていきたいと考え本年度は上記のテーマを設定した。
平成15年度	研究の内容	基礎基本の定着 ・学習に向き合える基本的な生活習慣の確立 ・主体的な生き方につながる生活支援をどう図るか
		習熟度を高めるための授業の創造 ・学習支援のあり方 ・「分かる授業」の創造 ・意欲的な生活体験を創ろうとする「総合的な学習の時間」の展開
平成15年度	研究の方法	指導方法の工夫と改善
		授業研究
		授業後の研究協議
		授業公開の開催
		学習環境の整備

平成 16 年 度	テーマ 習熟度を高めるための授業の創造をめざして 研究の内容 基礎基本の定着 ・学習に向き合える基本的な生活習慣の確立 ・主体的な生き方につながる生活支援をどう図るか 習熟度を高めるための授業の創造 ・学習支援のあり方 ・「分かる授業」の創造 ・意欲的な生活体験を創ろうとする「総合的な学習の時間」の展開 研究の方法 指導方法の工夫と改善 授業研究 授業後の研究協議 授業公開の開催 学習環境の整備

(3) 研究推進体制

教研推進委員会（校長、教頭、各学年代表）が中心となり、この事業を進めていく。その下部組織として「校内研修会」「各教科（部会）」「学年部会」を設け、それぞれの会に合った研究内容について、具体的・実践的な研究を進めることとする。

教研推進委員会

```

  graph TD
    A[教研推進委員会] --- B[校内研修会]
    A --- C[各教科（部会）]
    A --- D[学年部会]
    B --- E[第1研究小部会]
    B --- F[第2研究小部会]
    B --- G[第3研究小部会]
  
```

平成15年度は 校内研修会を学年、教科等を勘案し、それぞれ県、市指導主事を指導助言者として招聘した3つの小研究部会（第1部会～第3部会）をつくり、それぞれの部会でより具体的・実践的な研究を進めた。また、授業公開にあたっては指導案の検討、授業後の研究協議も部会を中心に進めることとした。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の二点は「学力の質」の向上を補完しあうもの、さらに「学力」を単に教科学習における知識・理解の定着度という狭義な捉えではなく、「生きる力を育む力」であると捉えるに至ったのは平成14年度の成果と考えている。そして習熟度を高めるためには「学ぶ意欲」を重視することが大切であり、学力は「教科」や「選択」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」、「部活動」、など学校総体の様々な取り組みのなかでバランス良く育つものであると考えるに至った。

加えて、平成15年度の仮説として、「習熟」の解釈を
 教科学習の基礎基本の内容理解
 自ら自分の生活を創っていく力、つまり「生きる力」といわれる力の2点であると捉え、この仮説に沿って、取り組みを進めた。

については、平成14年度の「興味関心」を糸口としたそれぞれの教科における授業改善の流れを受け、平成15年度は「習熟度を高めるための授業の創造」と題し、生徒が

主体的に取り組める授業
 自らの課題を解決していける授業

づくりに焦点をあて研究を進めてきた。その方法として、一人一回の公開授業を計画し、上記 2(3)に示した3つの小研究部会を組織し、この組織を核にして授業公開に

向けての細部にわたる指導案の検討から公開授業の当日の運営、授業後の研究協議に至るまでの細部を企画、運営し研究を推進してきた。

この小研究部会での取り組みから導き出された成果は

ねらいとする授業づくりについて十分協議できた

教科の枠を越えた研究へのチームワークに高まりを見ることができた

の2点と考えている。

については「学習環境づくり」と題し、様々な工夫をこらした取り組みを進めた。特徴的なこととして、「ノーチャイム」を9月1日より実施した。

チャイムが鳴らなくても授業の開始前に着席できており、教室移動もスムーズである。掃除時間（音楽あり）についても始まり終了ともほぼ守られている生徒の実態から、時間を十分意識した学校生活ができていると考えられる。言い換えれば時間の使い方において自分の生活を自分で創り出していく力がつきつつあるのではないかと考えている。

2. 今後の課題

「習熟度を高めるための授業」をどう創りだしていくかについては来年度も引き続き研究を進めていかなければならないが、特に習熟度アップのため生徒の主体的な参加を促す授業づくり、具体的には「聞く」「考える」「判断する」「整理する」「表現する力」を意識した授業づくりに取り組むとともに学級や仲間の学びへの雰囲気重視した学習環境づくりへも目を向けていかなければならない。

さらに、「ノーチャイム」への取り組みは今後とも継続していくとともに、他の取り組みとして、「図書館の常時開放」「パソコン教室の開放」もしくは「パソコンの図書館への設置」等を今後の課題として検討しているところである。

学力把握のための学校としての取組

基礎学力確認テスト

【小1～6年の学習内容による国語（漢字の読み書き）算数（計算）】

第1学年 学年初めと終わりに（実施追跡調査のため実施）

第2学年 学年の終わりに実施（実施追跡調査のため実施）

目標規準準拠検査

全学年五教科で実施（平成16年2月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開研究会(9/20)

授業公開（体育・技術・理科・数学少人数・英語）

研究発表

研究協議

参加人数 50名

美術科授業公開【(9/9) 授業公開・研究協議 20名参加】

家庭科授業公開【(9/29) 授業公開・研究協議 14名参加】

国語科授業公開【(12/9) 授業公開・研究協議 8名参加】

社会科授業公開（2/20予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		